

世界最初のペダル付自転車「ミショー」(1861年)



世界で最初に作られた自転車にはペダルがなく、地面を足で蹴って走りました。その自転車が修理のためフランスのパリで息子と鍛冶屋兼乳母車製造を営んでいたミショーに持ち込まれたのは1861年のことでした。はじめて自転車を目にした息子は修理が終わった後、点検を兼ねて試乗してみました。ペダルがないので蹴って進むのは大変でしたが、「下り坂では蹴る必要がないので、逆に足をどうしたらよいか困った」という感想がペダルをつける発想になったのです。「足が置けるように短い棒を前輪に付けたらどうだろうか?」「そうすれば、片足で踏めば反対の足があがってくるじゃないか」

父親が図面を描き、息子が実際に作って試乗しました。片方の手でハンドルを握り、他方の手は壁に当てながら、ペダルに足を置いてゆっくりと踏みはじめると少しずつ前に進み出しました。この瞬間、人の足が地面から離れて自転車が進むようになったのです。こうして誕生した世界最初のペダル付自転車は子ども用三輪車と同じく前輪にペダルが付いており、考案者に敬意を表して「ミショー自転車」と呼ばれています。

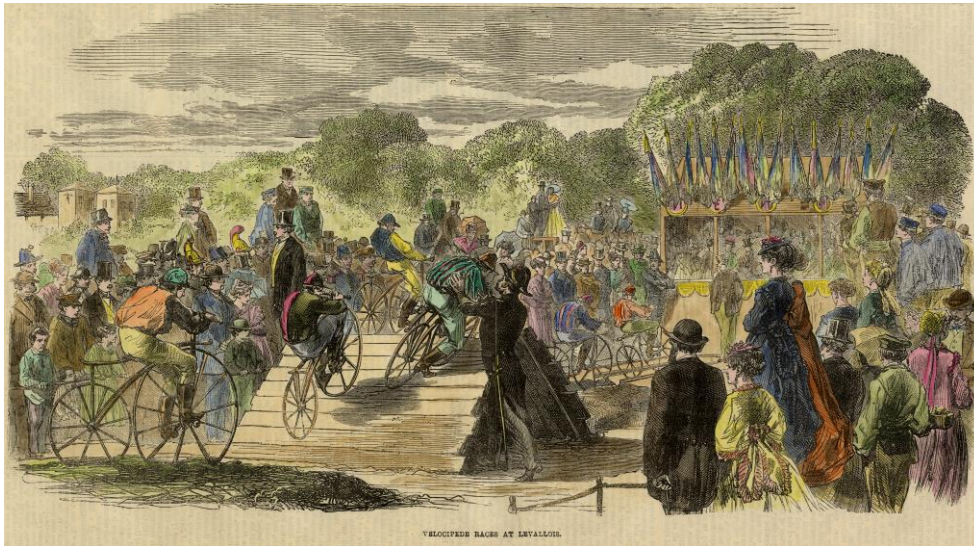
ミショーはペダル付自転車が完成した後に2台製造して販売しましたが、その人気は年を追って高まり、顧客リストにはルイ・ナポレオン王子やアルバ公爵もいました。6年後には、1000台を販売し、自転車が交通の手段として認められるようになりました。



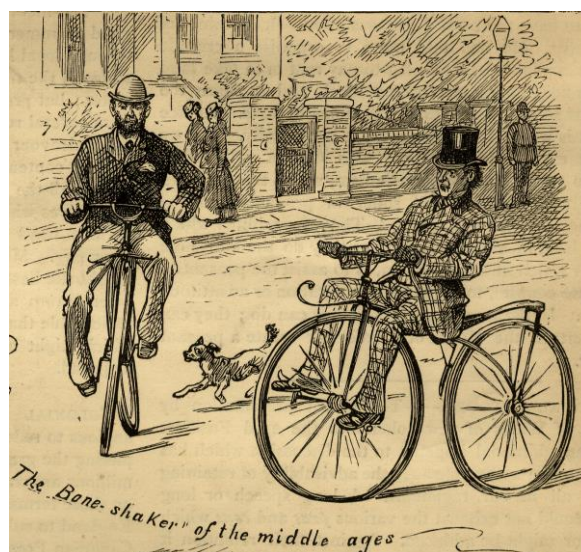
ピエール・ミショー (1813年~1883年)
フランス人 パリで鍛冶屋兼乳母車製造を営んでいた



パリ郊外でミショー自転車に乗ってサイクリングを楽しむルイ・ナポレオン王子とアルバ公爵



1869年に開催されたミショー自転車による自転車レース初期の頃の様子



自転車が交通手段の1つとして認めはじめられた頃にミショー自転車に乗る紳士たち